

厳しいハンディウエイトのなか予選/決勝ともに11位で終える

RACE	2015 AUTOBACS SUPER GT Round7 『SUPER GT IN KYUSHU 300km』
DATE	予選：2015年10月31日 決勝：2015年11月1日
CIRCUIT	オートポリス（大分県）
WEATHER	予選：晴れ/ドライ 決勝：くもり/ドライ
RESULT	予選：11位 決勝：11位

いよいよ今シーズンのセミファイナルラウンドを迎えたSUPER GT。第7戦は九州の大分・オートポリスへと場を移し、ラストスパート直前の戦いに挑むこととなる。前回、スポーツランドSUGOでの一戦では予選2位からスタートを切り、波乱が続く中で躍進を遂げて優勝を果たしたTEAM KUNIMITSUのNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。ドライバーズランキング2位で挑んだ今回のオートポリス戦は、レースウィーク初日から細かなトラブルに見舞われるなど、厳しい向かい風の戦いを強いられることになった。結果、決勝は11位でチェッカードフラッグを受けている。



TEAM KUNIMITSUとして2年ぶりの勝利を飾った戦いにより、山本尚貴、伊沢拓也両選手が駆るNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTはランキング2位へと浮上。シーズン中盤のタフな戦いからようやく好機をつかむことになった。しかしその一方で、チームはオートポリス戦が厳しい戦いになることを把握していた。というのも、このサーキットでは、搭載ウエイトの49kgがまさしく重荷となるからだ。実際、事前に行われたタイヤメーカーテストの走行においてもウエイトによる影響が出ており、チームではまずレースへの対策として事前の準備に多くの時間を割くことになった。

一方、土曜の朝の公式練習では、セッション直前になって作業が増え、ピットでの待機時間が思いのほか長くなってしまった。結果、ライバル達より少ない周回数での走りとなり、存分なタイムアップも果たせず11番手でセッションを終えている。

◎ 予選：

前日の搬入日は曇り空が先行、寒さを覚える天候だったが、土曜日は朝こそ冷え込んだものの、しばらくするとやわらかな恵みの日差しが続き、オートポリスは終日穏やかな深秋の好天気に恵まれた。そんな中、午後1時50分からGT500クラスのQ1がスタート。気温、路面温度とも朝の公式練習よりも数値が上がって気温12度、路面温度27度の中でのアタック合戦が始まった。



コースインしたのは山本選手。朝の短い走行時間の中からアタックに向けたセッティングで一発のタイムを狙っていく。しかし、GT500車両の中でハンディウエイトを含めて一番重い車両となったNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは、思うようにタイムが伸びない。それでも山本選手は渾身のアタックで1分34秒291のタイムをマーク、従来のコースレコードを上回ったものの、ポジションは11番手どまり。残念ながら、Q2へと駒を進めることは叶わなかった。

朝から慌ただしい状況での走行を強いられた山本、伊沢両選手。Q1で懸命のアタックを見せた山本選手は「出走前に出たトラブルを修復するため、時間を要しました。ただセッション中に赤旗が出たこともあり、作業を進めることができたのも事実です。できればトラブルなく走ることができれば、これまでのいい流れを継続できたのに…」と悔しさを滲ませつつも、「決勝で同様のトラブルがでなくて良かったと前向きに考えるしかない」と気持ちを切り替えた。また、伊沢選手も「今回の僕らの車両はウエイトも重いので、それを考えたら一応持てる力を出せている状態だと思っています」とタフな現状をしっかりと受け止めていた。「当初から今回は厳しい戦いを予想していたので、予選よりも決勝を大事にしたい」とやる気を覗かせた。

◎決勝：

決勝日を迎えたオートポリスは再び薄曇りの朝となる。午前9時からスタートしたフリー走行は気温10度でスタート、路面温度は30分間で11度から14度まで上昇するも、冷たい風を感じる中で行われることになった。

前日、トラブルに遭遇したチームでは予選終了後からミーティングを重ねて作業を続行、決勝に向けてセッティングを大幅に見直した。そこで、フリー走行ではフィーリング確認のために山本、伊沢両選手がそれぞれチェックを行なうなど、最終調整の作業を念入りに進めた。No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTがこのセッションで刻んだタイムは1分38秒467の13番手ではあったが、トラブルフリーでセッションを終えたことで、決勝での奮走に集中できる環境が整ったのは言うまでもない。



午後2時、65周にわたる戦いは気温14度、路面温度18度の中で幕を開ける。No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTのステアリングを最初に握ったのは、山本選手。ポジションキープの11番手でオープニングラップを終え、順調に周回を重ねていく。タイヤに熱が入ると、前を行く46号車を追走。だが一方で後方車両の猛攻に遭うという、タフなコンディションでの戦いを強いられた。粘りと我慢の走り続ける山本選手だったが、GT300車両の周回遅れが絡みはじめると、時には走行ラインをキープすることもままならず、同時にタイヤのピックアップも激しくなってくる。

レースは折り返し前後からピットインするチームが続出。だが、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTはコース上が少しでもクリアな状態でタイムを稼ぐこと、一方では懸念されていた雨がぼつりぼつりと落ちはじめたため、逆に作業のタイミングを遅らせた。結果、38周を走り終えてピットイン。だがこのインラップでハプニングがNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTを襲う。まさかのGT300車両との接触で、スピンアウト。幸い、自走でピットへクルマを戻すことはできたが、一時的にグラベルへと車両を落としたことで大きくタイムロス。しかし、ピットで待ちかまえたスタッフが手際よく作業を行ない、山本選手からステアリングを引き継いだ伊沢選手を送り出した。

レースは、後半に入ってもあちこちで激しい攻防戦が続く、伊沢選手も高い集中力を持ってポジションアップの好機を伺いながら周回を重ねていった。ファイバーが小刻みに動く様子がTVモニターに映し出されるも、レインタイヤを装着するまでには至らず。難しいコンディションの中、伊沢選手は最後まで粘りを見せて11位までポジションアップ。ポイント獲得可能な10位を目指し、チェッカーまで力走を続けた。残念ながら10位まであと一步届かず11位でレースを終えることになったが、トラブルフリーで戦い抜き、最終戦に向けての新たな足がかりを作ることになったと言える。

オートポリス戦を終えて、ドライバーランキングはトップと17ポイント差の5位と惜しくもポジションを下げてしまったが、山本、伊沢両選手にはチャンピオン獲得の可能性が依然として残されている。ノーウェイトで挑む最終戦は気持ちを一新、文字通りのガチンコでの真っ向勝負に挑む。



◎高橋国光総監督

前回のSUGO戦がいい展開だったので、このオートポリスはいわゆる“ハズレ”のレースになってしまいました。そんな厳しい戦いではありませんでしたが、全力で戦うべく、チームではドライバーはもちろんスタッフ全員が精一杯の力を振り絞って頑張ってくれました。残念ながら流れがなかった、ということだと思います。次回はいよいよ最終戦。しっかりと力を出し切れる戦いをして、いい形で締めくくりができればと思います。



◎山本尚貴選手

今回は苦戦を強いられるとは思っていましたが、予想以上にキツかったですね。レース中は自分のペースも上げることができなかつたし、後続車を押えることもできませんでした。タイヤのピックアップもキツかったですね。

スティントを終え、インラップのときにGT300車両との接触がありました。結果、相手にペナルティは出ましたが、グラベルにつかまってタイムロスしてしまったのがとても残念です。今回は全体に流れがよくありませんでした。最終戦に向けてもうちょっと状況をキチンと整理し、ライバルたちと同じコンディションとなる最終戦のもてぎでは、自分たちの力を出し切れるようにしたいです。

◎伊沢拓也選手

今日のレース展開はある意味予想どおりですね。最初から厳しい戦いになると思っていました。最終的にはポイントを獲れなかったのが僕たちにとっては厳しい結果になりました。とはいえ、今回の僕たちにはポイントを獲れるだけの速さがあったかどうかという、正直そうではなかったようにも思います。

今週はいい流れではなかったし、いい風も吹かなかつたということでしょうか。前回のSUGO戦が良すぎたということもあるでしょうね。最終戦のもてぎではウェイトが関係なくなるので、そこでいいレースをすることが僕らにできることだと思います。



第8戦は11月14日～11月15日に栃木県・ツインリンクもてぎにて開催されます。
引き続き、皆様のご支援・ご声援をお願いいたします。